

# 未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市

広島県東広島市（2020年度選定）

## 1. 地域の特徴と課題及び目標

広島県のほぼ中央に位置する東広島市。大学・試験研究機関や先端技術産業の集積は、研究者、技術者などの高度な知識・技術を有する人材をはじめ、学生、留学生などの増加をもたらし、多くの人材が集う都市として成長してきた。平成の大合併後は、歴史・文化的な資源をはじめ、内陸部の山々や田園風景、瀬戸内海の多島美を臨む海岸線など、地域の特色である豊かな自然環境に広域性多様性が加わるとともに、学術研究機能の厚みも増した。人口増加傾向の鈍化・産業構造の偏重・次世代を担う人材の定着が課題である。

## 2. 関連するゴール



## 3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

「誰一人として取り残さない」というSDGsの理念と性質に基づき、「大学発のイノベーションが生まれるまち」「国際化など新たな時代に対応し、人が輝く多文化共生のまち」「環境に配慮し、持続可能で住みやすく住みたくする先端技術のまち」を市民とともに実現する。

## 4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

- ・市内大学との共同研究（COMMONプロジェクト）の実施  
行政課題解決のため、大学の知見を活用した共同研究を実施
- ・次世代学園都市への挑戦  
大学と共に持続的な地域の発展や大学の進化などを目指す  
「Town & Gown」を推進するとともに、これに賛同する企業も参画した「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」により、Well-being、SDGs、ポジティブピースの実現に向けた活動を行った。  
このコンソーシアムを推進母体として、企業の新技術の実証・実装を進めながら、世界から起業家や研究者が集まるまち、新技術の社会実装と経済の好循環の実現、「適散・適集社会」の新たな都市モデルの構築に取り組んだ。

## 5. 取組推進の工夫

大学と連携した地域社会課題解決のための調査・研究及び体制づくり、大学（教員・学生）と市職員が自由な発想で調査・研究をする仕組みづくり（意見交換の場づくり、共同業務の日常業務化に向けた検討など）を工夫し、市内大学と「Town & Gown」に取り組んだ。

## 6. 取組成果

- ・市内の大学と計14件の共同研究（COMMONプロジェクト）を実施し、地域の課題解決に向けて取り組んだ。  
（主な共同研究）
- ・豪雨災害を想定した流域土地利用計画を描く～「まもる」「さける」「つきあう」の適正配置に向けて～
- ・メタバースを活用した新たな教育支援プロジェクト
- ・福富町における廃校小学校の空間的価値を活かしたりノベーションによる循環経済の具現化
- ・学校と地域がつながるJR西高屋駅周辺のまちづくり

また、「東広島市次世代学園都市構想」の実現に向け、2023年度には、近畿大学に「Town & Gown Office」を開設し、本格稼働を開始した。

## 7. 今後の展開策

引き続き、市内大学とともに「Town & Gown」の推進、展開を進め、大学との研究推進体制・機能の充実強化を行い、魅力あるまちづくりにつなげる。  
また、「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」を推進母体として、市や大学、企業その他、広島県や地域団体などと幅広く連携し、地域におけるSDGsの達成にむけた課題解決に取り組むとともに、最先端の技術を取り入れながら、新たなイノベーションを創出し、世界から起業家や研究者が集まるまちづくりの実現を目指す。

## 8. 他地域への展開状況（普及効果）

2023年度に他県からの行政視察を1件受け入れた。  
大学と自治体が持続可能な未来のビジョンを共有の上で、包括的、日常的、継続的、組織的な連携関係を構築し、地方創生への貢献を目指すTown & Gown構想をモデルとして具体化・一般化し、日本全国に広めるために、相互に連携・協力することを目的として2023年10月に広島大学、東広島市が中心となり全国Town & Gown構想推進協議会を設立。現在正会員7団体で活動を推進している。

# SDGs未来都市等進捗評価結果報告シート

2020年度選定

広島県東広島市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

東広島市 SDGs未来都市計画  
～未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市～  
国際研究拠点ひがしひろしま形成プロジェクト

広島県東広島市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（ 1 ） 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

| No | 指標名<br>※[]内はゴール・ターゲット番号                            | 当初値                                | 2022年                                                 | 2030年（目標値）                         | 達成度<br>（％） | 第2期計画（または独自計画）の<br>KPIへの反映状況                                                                                                                               |
|----|----------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 市内総生産額【8.2】                                        | 2017年 8,800 億円                     | 2022年 データなし 億円                                        | 2030年 10,000 億円                    | —          | 2022年の市内総生産額は、広島県の統計情報「市町民経済計算」により把握しているが、現在令和 3 年度分までしかデータが公表されておらず、達成度は確認できていない状況である。確認可能な2021年の市内総生産額は、1兆 1 千億円をこえており、引き続き企業の投資に係る支援や産業用地の確保の取り組みを推進する。 |
| 2  | 総投資額10億円以上の立地企業数【9.5】                              | 2019年 4 件                          | 2022年 (現状値) 19 件                                      | 2030年 20 件                         | 94%        | 2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                                                                                                                  |
| 3  | 全国学力・学習状況調査結果における正答率40%未満の児童生徒の割合（小学校）【4.1】【17.17】 | 2019年 11.0 %                       | 2022年 13.1 %                                          | 2030年 9.0 %以下                      | -105%      | 第2期計画ではICT環境を最大限活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図り、達成へ向け取組を推進する予定である。                                                                                             |
|    | 全国学力・学習状況調査結果における正答率40%未満の児童生徒の割合（中学校）【4.1】【17.17】 | 2019年 17.0 %                       | 2022年 19.2 %                                          | 2030年 15.0 %以下                     | -110%      | 第2期計画ではICT環境を最大限活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図り、達成へ向け取組を推進する予定である。                                                                                             |
| 4  | 市の課題に対する大学との共同研究件数【9.5】                            | 2018年 8 件                          | 2022年 5 件                                             | 2030年 12 件                         | -75%       | 大学との共同研究を、市内大学の知的・人的資源を活用し、東広島市と大学が「共通（COMMON）」の課題に取り組む「COMMONプロジェクト」として整理し、行政課題の解決や重点施策の推進を目的として実施している。第 2 期計画では目標の達成へ向け推進を図る予定である。                       |
| 5  | 東広島市での暮らしに満足している外国人市民の割合【10.2,10.3】                | 2019年 84.7 %                       | 2022年 5 年毎の計測のため未実施（次回、第 4 次国際化推進プランに向けて2024年頃計測予定） % | 2030年 90.0 %以上                     | —          | 2022年についてはデータがなく、達成度は確認できていないため、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                                                                                                       |
| 6  | 居住誘導区域内人口密度（西条・八本松・志和・高屋）【11.2,11.a】               | 2019年 50.1 人／ha                    | 2022年 西条・八本松・志和・高屋 51.5 人／ha                          | 2030年 西条・八本松・志和・高屋 52.0 人／ha       | 74%        | 2030年の目標へ向けて、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                                                                                                                          |
|    | 居住誘導区域内人口密度（黒瀬）【11.2,11.a】                         | 2019年 48.7 人／ha                    | 2022年 黒瀬 47.5 人／ha                                    | 2030年 黒瀬 現状維持 人／ha                 | 98%        | 2030年の目標へ向けて、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                                                                                                                          |
|    | 居住誘導区域内人口密度（河内）【11.2,11.a】                         | 2019年 16.2 人／ha                    | 2022年 河内 15.8 人／ha                                    | 2030年 河内 現状維持 人／ha                 | 98%        | 2030年の目標へ向けて、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                                                                                                                          |
|    | 居住誘導区域内人口密度（安芸津）【11.2,11.a】                        | 2019年 23.3 人／ha                    | 2022年 安芸津 21.8 人／ha                                   | 2030年 安芸津 現状維持 人／ha                | 94%        | 2030年の目標へ向けて、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                                                                                                                          |
| 7  | 市内の温室効果ガス総排出量【13.2,13.3】                           | 2013年 2,257.5 千 t -CO <sub>2</sub> | 2022年 データなし 千 t -CO <sub>2</sub>                      | 2030年 1,670.6 千 t -CO <sub>2</sub> | —          | 事業所等の排出量データの提供が受けられなくなり、2022年のデータを集計できなかったため、今後は、これに代わる進捗評価が可能な指標を設定することを検討する。                                                                             |
| 8  | 公共交通空白地域外の人口比率【11.2】                               | 2018年 82.7 %                       | 2022年 83.2 %                                          | 2030年 85.0 %以上                     | 22%        | 2030年の目標へ向けて順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                                                                                                                 |

広島県東広島市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（ 2 ） 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

| No | 取組名                                      | 指標名                         | 当初値                                | 2022年実績                          | 2022年目標値                           | 達成度（%） | 第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況                                                                                                                                                            |
|----|------------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | SDGs×COOL CHOICE、SDGsフェア                 | COOL CHOICE 賛同者数（延べ人数）      | 2019年 1,683 人                      | 2022年 4,771 人                    | 2022年 3,500 人                      | 170%   | COOL CHOICE運動が2023年12月をもって終了した。<br>R6年度より「イベント等を通じて環境意識が高まった市民の割合」を新たなKPIとする。                                                                                                       |
| 2  | S-TOWNプロジェクト                             | 市内の温室効果ガス総排出量               | 2013年 2,257.5 千 t -CO <sub>2</sub> | 2022年 データなし 千 t -CO <sub>2</sub> | 2022年 1,927.4 千 t -CO <sub>2</sub> | —      | 事業所等の排出量データの提供が受けられなくなり、2022年のデータを集計できなかったため、今後は、これに代わる進捗評価が可能な指標を設定することを検討する。                                                                                                      |
| 3  | ウーマンネットワークの形成                            | ウーマンネットワーク受講者数（延べ人数）        | 2019年 未実施                          | 2022年 72 人                       | 2022年 150 人                        | 48%    | 第 1 期での目標達成度は低かった。<br>第 1 期では単年度での受講者数を目標値として設定していたが、指標の対象としているイベント内容や頻度は年度ごとに変わり、各年度を同じ条件で比較することが困難であった。そのため、第2期計画では単年度の受講者人数ではなく、計画期間の3年間における受講者数の累計を目標値として設定し、取組達成へ向け推進を図る予定である。 |
| 4  | デジタルリテラシー教育の実施                           | デジタルリテラシー教育受講者数（延べ人数）       | 2019年 未実施                          | 2022年 50 人                       | 2022年 150 人                        | 33%    | 第 1 期での目標達成度は低かった。<br>第 1 期では単年度での受講者数を目標値として設定していたが、指標の対象としているイベント内容や頻度は年度ごとに変わり、各年度を同じ条件で比較することが困難であった。そのため、第2期計画では単年度の受講者人数ではなく、計画期間の3年間における受講者数の累計を目標値として設定し、取組達成へ向け推進を図る予定である。 |
| 5  | 学校の特徴ある教育活動の応援                           | 「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童・生徒の割合   | 2019年小学生 89 %                      | 2022年小学生 88.5 %                  | 2022年小学生 90 %                      | -50%   | 第2期計画では個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るとともに、個に応じたきめ細かな支援を行い、達成へ向け取組を推進する予定である。                                                                                                               |
| 6  |                                          | 「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童・生徒の割合   | 2019年中学生 88 %                      | 2022年中学生 83.7 %                  | 2022年中学生 89 %                      | -430%  | 第2期計画では個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るとともに、個に応じたきめ細かな支援を行い、達成へ向け取組を推進する予定である。                                                                                                               |
| 7  | 生活オリエンテーションの実施                           | 外国人新規転入世帯に対する生活オリエンテーション実施率 | 2018年 33 %                         | 2022年 53 %                       | 2022年 45 %                         | 170%   | 目標を大幅に達成し、第2期計画では目標値を上げて進捗を確認していく。                                                                                                                                                  |
| 8  | JICA研修                                   | 国際協力研修事業協力者数                | 2018年 178 人                        | 2022年 36 人                       | 2022年 215 人                        | -384%  | コロナの影響により、目標達成度が低い結果となった。引き続き第2期計画でも進捗を確認していく。                                                                                                                                      |
| 9  | 広島中央エコパーク整備（一部事務組合（広島中央環境衛生組合）によるプロジェクト） | 市内の廃棄物最終処分量                 | 2018年 10,188 m <sup>3</sup> ／年     | 2022年 0 m <sup>3</sup> ／年        | 2022年 0 m <sup>3</sup> ／年          | 100%   | 目標を達成できている。第2期計画でも継続して状況を確認していく。                                                                                                                                                    |
| 10 | 行政手続き等のデジタル化、データ活用                       | 行政手続きのデジタル化数                | 2019年 0 件                          | 2022年 3 件                        | 2022年 3 件                          | 100%   | 目標が達成できており、第2期計画ではKPIを「市民ポータルサイトの登録者数」と「行政手続きのオンライン化」に見直し更なる推進を図る予定である。                                                                                                             |
| 11 |                                          | 地域情報分析システムによるデータ統合カテゴリ数     | 2018年 0 種                          | 2022年 72 種                       | 2022年 80 種                         | 90%    | 概ね目標が達成できており、第2期計画ではKPIを「市民ポータルサイトの登録者数」と「行政手続きのオンライン化」に見直し更なる推進を図る予定である。                                                                                                           |

広島県東広島市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（3）三側面ごとの取組の達成状況（特に注力する先導的取組）

| No | 取組名                                                                                                                                          | 取組内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 指標名                                 | 当初値                             | 2022年（実績）                                   | 2022年（目標値）                      | 達成度（%） | 第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況                                                       |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ①－1 イノベーションによる新たな価値の創造<br>①－2 イノベーションを担う多様な人材の育成<br>①－3 大学やサイエンスパーク等との連携によるイノベーションの加速                                                        | ①－1 イノベーションラボ「ミライノ+」を拠点とし、多様な人材が有機的につながることで相互作用でアイデア等を誘発する仕掛けを作り、幅広い産業分野で付加価値を創出する。<br>①－2 次世代を担う若年層を対象にアントレプレナー教育の実施とモノづくりからコトづくりに向けたスキルの教育、デジタルテクノロジーの活用を促す。<br>①－3 産学金官の連携強化により大学等の知的資源を活用したイノベーション創出のための取組を加速させる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 生産寄与直接効果額                           | 2020年2月72 百万円                   | 2022年445 百万円                                | 2022年340 百万円                    | 139%   | 順調に進捗している。第2期計画にも記載し、引き続き進捗を確認していく。                                            |
| 2  | ②－1 言語・文化の違いによらない円滑な暮らしの実現<br>②－2 大学の研究成果の活用、未来技術の社会実装による地域の社会的活動の解決<br>②－3 学校教育の支援、学生の地域活動の促進                                               | ②－1 言語の違いによらず円滑に移動できるよう効果的な多言語サイン等について調査を実施し、滞在時の利便性向上につなげる。<br>②－2 統合アプリケーション基盤の構築、住民サービス業務システムの開発運用により、住民とのやりとりや手続きにかかる入口を一元化した統合アプリケーション基盤を構築し、既存アプリやシステムと連動・連携することで、利便性の高いサービスを提供する。<br>②－3 小中学生高学年及び中学校の生徒の希望者を対象に、年間を通じて科学研究を実施するプロジェクトチームを立ち上げ運営することにより、理数系分野への興味関心を醸成する。また、学生自身の成長と学生の地域への愛着につなげるための地域体験ツアーや、地域活動を実践するためのノウハウを学ぶ塾を開催するなど、地域活動の促進につながる機会の創出とともに、学生と地域を結ぶコーディネート機能の充実を図る。                                                                                                                                                                                                       | 東広島市での暮らしに「大変満足」、「やや満足している」外国人市民の割合 | 2019年10月84.7 %                  | 5年ごとの計測のため未実施（次回、第4次国際化推進プランに向けて2024年頃計測予定） | 2022年87 %                       | －      | 2022年についてはデータがなく、達成度は確認できていないため、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。                           |
|    |                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 行政手続きのデジタル化数                        | 2019年0 件                        | 2022年3 件                                    | 2022年3 件                        | 100%   | 目標が達成できており、第2期計画ではKPIを「市民ポータルサイトの登録者数」と「行政手続きのオンライン化」に見直し更なる推進を図る予定である。        |
|    |                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | コーディネートした学生活動の件数                    | 2018年24 件                       | 2022年46 件                                   | 2022年28 件                       | 550%   | 順調に進捗した。第2期計画にも記載し、引き続き進捗を確認していく。                                              |
|    |                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 「めざせ！未来のノーベル賞プロジェクトチーム」参加者数         | 2019年未実施                        | 2022年未実施                                    | 2022年60 人                       | －      | より多くの子どもたちに学びの機会が広がるよう、事業の見直しを行い、第2期計画ではKPIを「科学の芽育成講座」講座数に変更した。                |
| 3  | ③－1 環境先進都市推進事業<br>③－2 地域新電力会社の活用による省エネルギー化等推進事業<br>③－3 自動運転車両及び移動サービスの社会実装<br>③－4 交通結節店の整備<br>③－5 公共交通空白地域の解消<br>③－6 スマートシティ（スーパーシティ）基本構想の策定 | ③－1 産学官民で構成する環境先進都市ビジョン推進会議及びプロジェクトチームを設け、エネルギーの面的利用システムの構築や地域マイクログリッドの検討、スマートハウス化の支援、木質バイオマスの利活用、SDGs×COOL CHOICEの啓発、次世代型自動車の公用車への導入等に取り組む。<br>③－2 エネルギーの地産地消や省エネルギー設備の積極的な導入等によるエネルギーのスマート化を推進するため、地域新電力会社を設立し、同社を軸にした官民連携によるスキームを活用し、市有施設への売電、市内の再生可能エネルギーの買電、ESCO事業等省エネルギー貢献事業、地域還元事業等に取り組む。<br>③－3 地域の交通課題の解決と自動運転車両の実装に必要な運行データの収集を行うとともに、移動サービス分野と連携した新たな取組を進める。<br>③－4 公共交通ネットワークの強化を図るため、市内にバスの結節点を整備し、幹線と周辺地域の支線交通の連携を促進する。<br>③－5 公共交通空白地域の解消を目指して、地域が主体となった新たな移動手段の導入を促進する。<br>③－6 最先端技術や制度の緩和等により、外国人市民も言葉や文化の違いを超えて不自由なく生活でき、イノベーション創出の鍵となる、クリエイティブな人材を引きつける、環境に配慮した利便性の高い新たな市街地の形成を図る。 | 市の温室効果ガス総排出量                        | 2013年2,257.5 千t-CO <sub>2</sub> | 2022年データなし 千t-CO <sub>2</sub>               | 2022年1,927.4 千t-CO <sub>2</sub> | －      | 事業所等の排出量データの提供が受けられなくなり、2022年のデータを集計できなかったため、今後は、これに代わる進捗評価が可能な指標を設定することを検討する。 |
|    |                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 公共交通空白地域外の人口比率                      | 2018年3月82.7 %                   | 2022年83.2 %                                 | 2022年84.0 %                     | 38%    | 2022年の目標値には届かなかったが当初値よりも数値は向上した。引き続き第2期計画にも記載し、目標達成に向けて進捗を確認していく。              |
|    |                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | スマートシティ・スーパーシティ基本構想の策定              | 2020年8月未策定                      | 2022年策定済                                    | 2021年に策定済<br>2022年              | 100%   | 目標を達成できており、第2期計画にはKPIとしては記載しないが、引き続き構想に基づいた取り組みを推進する。                          |

広島県東広島市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（４）三側面をつなぐ統合的取組の達成状況（特に注力する先導的取組）

| No | 指標名                            | 当初値              | 2022年実績       | 2022年目標値       | 達成度（％） | 第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況                                                                          |
|----|--------------------------------|------------------|---------------|----------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 【経済→環境】【経済→社会】生産寄与直接効果額        | 2020年2月 72 百万円   | 2022年 445 百万円 | 2022年 340 百万円  | 139％   | 順調に進捗している。第2期計画にも記載し、引き続き進捗を確認していく。                                                               |
| 2  | 【環境→経済】再生可能エネルギー導入容量           | 2019年9月 22.1 万kw | 2022年 27 万kw  | 2022年 24.0 万kw | 232％   | 順調に進捗した。一定の成果が上がったことが認められたことから、第2期計画のKPIには記載しないが、引き続き、再生可能エネルギーの活用推進には取り組む。                       |
| 3  | 【社会→経済】大学発ベンチャーの企業数            | 2018年 62 件       | 2022年 86 件    | 2022年 68 件     | 400％   | 順調に進捗した。産学官連携が進んだことで想定以上の成果が出せたことから、第2期計画には記載しないが、引き続き、大学発ベンチャーや創業・起業を含め、自立的に「しごと」が生まれる環境の形成を目指す。 |
| 4  | 【社会→環境】COOL CHOICE の賛同者数（延べ人数） | 2019年 1,683 人    | 2022年 4,771 人 | 2022年 3,500 人  | 170％   | COOL CHOICE運動が2023年12月をもって終了した。<br>R6年度より「イベント等を通じて環境意識が高まった市民の割合」を新たなKPIとする。                     |
| 5  | 【環境→社会】公共交通空白地域外の人口比率          | 2018年3月 82.7 ％   | 2022年 83 ％    | 2022年 84.0 ％   | 38％    | 2022年の目標値には届かなかったが当初値よりも数値は向上した。引き続き第2期計画にも記載し、目標達成に向けて進捗を確認していく。                                 |

（５）第 1 期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>●特筆すべき事業内容</p> <p>①総投資額10億円以上の立地企業数（2030年の目標値に対する達成度 94％）</p> <p>②外国人新規転入世帯に対する生活オリエンテーション実施率（2022年の目標値に対する達成度 170％）</p> <p>③市の課題に対する大学との共同研究件数（2030年の目標値に対する達成度 -75％）</p> <p>④全国学力・学習状況調査結果における正答率40％未満の児童生徒の割合（2030年の目標値に対する達成度 小学校-105％、中学校-110％）</p> <p>⑤「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童・生徒の割合（2022年の目標値に対する達成度 小学校-50％、中学校-430％）</p> <p>⑥国際協力研修事業協力者数（2022年の目標値に対する達成度 -384％）</p> <p>●成果</p> <p>①本市は半導体製造拠点や大学・研究機関が集積するなど新しい産業やイノベーションを創出するポテンシャルを有しており、このような本市の特徴等を発信したこと等によって、多くの企業立地につながった。</p> <p>②市役所の窓口や事業者等を通じて、オリエンテーションの案内や受講を勧めた結果、実施率を伸ばすことができた。</p> <p>③大学との共同研究による行政課題解決は、新たなイノベーションや、世界から起業家や研究者たちが集まる持続可能なまちづくりに資する事業につながっている。</p> <p>④全国学力・学習状況調査結果において、全国や広島県と比較して良好な水準にある。</p> <p>⑤各学校が、日々の授業や集団生活などを工夫し、児童生徒が充実した生活を送ることができるように取り組み、8 割以上の児童生徒が学校に行くのが楽しいと感じることができた。</p> <p>⑥JICAと連携しながら海外からの研修生の希望に合った研修を実施し、研修生の知識の習得や市内の学校の児童生徒との異文化交流に寄与した。</p> <p>●課題</p> <p>①産業用地は、民間遊休地等の活用促進により民間主体の産業用地の拡張は進んでいるものの、新たな産業用地として開発可能なエリアは限られ、分譲可能な産業団地も無い状況にある。</p> <p>②2022年度については、入国規制の緩和により新規転入の外国人数が増加に転じたこともあり、実施した人数は増加したが、現状の体制ではオリエンテーションを実施できる対象人数が限られるため、実施率としては前年度を下回る結果となった。今後、さらに外国人の転入者が増えた際の体制作りが課題である。</p> <p>③市が抱える課題を十分に抽出できておらず、大学の研究シーズとマッチングできていないことがあげられる。</p> <p>④全国学力・学習状況調査結果において、正答率40％未満の児童生徒の割合が、小・中学校ともに増加している。不登校児童生徒、特別支援学級在籍児童生徒、外国につながる児童生徒等が増加し、児童生徒の多様化が進んでいる。</p> <p>⑤コロナ禍において、学習活動や児童生徒の関わり、学校行事等に制限があり、学校生活における楽しさを感じる場面が少なかった。</p> <p>⑥コロナによる入国制限やJICAから研修要請のあった研修生が少ないなど、外部的な要因により年度によって実績値が大きく変動することがある。そのため、安定した実績を維持しにくいことがある。</p> <p>●今後の展望</p> <p>①成長を支える企業の設備投資の促進による生産性向上と、D X ・G Xを支える高度人材の集積による高付加価値型の産業の創出や、起業支援等を行うことで、2030年のあるべき姿の実現を目指していく。</p> <p>②より多くの外国人が生活するうえで必要な情報を入手できるように、オンラインや出張によるオリエンテーションを通じ、新規に転入する外国人へのサポートを進める。</p> <p>③市で全庁的な課題出しを行い、大学内に設置したTown &amp;Gown Officeとの連携等により、課題と研究のマッチングを進めていく。</p> <p>④すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けることができる安全・安心な社会環境を整えていくために、ICT環境を最大限活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るとともに、個に応じたきめ細かな支援を行っていく。</p> <p>⑤児童生徒が学校へ行くのは楽しいと思えるように、授業や学校生活の工夫や個に応じた支援を行うことで、魅力ある学校づくりの推進していく。</p> <p>⑥JICAと連携しながら海外からの研修生に対して、可能な範囲でニーズに合う研修に協力し、また、市内の学校の児童生徒等と交流してもらうことによって、互いに異文化に触れ合う機会を確保していく。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

（6）有識者からの取組に対する評価